令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と 今後の取り組みについて

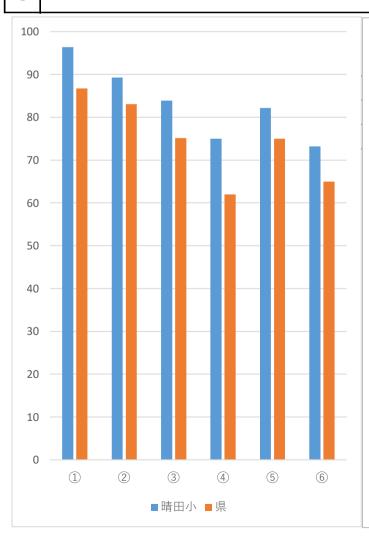
令和7年10月 小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査(6年 国語科 算数科 理科)の結果をお知らせします。また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と、低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」】

<数値が特に高かった項目>

- ① 自分には、よいところがあると思いますか
- ② 将来の夢や目標を持っていますか
- 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
- ④ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- ⑤ 算数の授業の内容はよく分かりますか
- ⑥ **算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか**

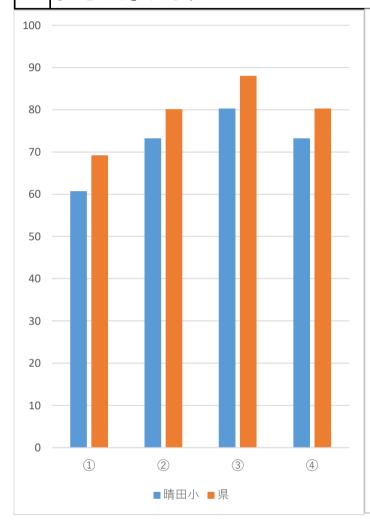


<分析と取り組み>

- ・校内研で、「できる喜び・分かる楽しさを感じる子どもの育成」を目指し、 算数科を中心に様々な場面や方法で交流活動を仕組み、学習を進めている。 ③④⑤⑥の項目が、県の数値よりも大きく上回っているという結果は取組の成果でもあると考えている。
- ・晴田小では児童の「自己有用感」の向上を軸にした教育活動を展開することを重点目標としている。①②の項目が、県の数値よりも大きく上回っているという結果は、授業や特別活動の中で、「出番」「役割」「承認」される取組を仕組んだことの成果であると考えている。

<数値が特に低かった項目>

1	読書は好きですか
2	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
3	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか
4	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



<分析と取り組み>

- ・①の結果から、本に触れることへの抵抗感の高さがうかがえる。まずは、朝読書の時間をしっかり確保し、日常的に本に触れる機会を設けることで、読書に対する抵抗感を減らす取組をしていきたい。
- ・②では、晴田小は青少健をはじめ地域とのつながりが非常に強い。そのため、地域社会が充実しており、その結果、さらによくするためにというところまでは考えが及ばなかったのではないかと考えられる。
- ・③では、児童がタブレット端末を授業の中で使うことは慣れているものの、情報収集に関しては苦手意識をもっていると考えられる。調べ学習を通して、多くの情報から取捨選択できる能力を養っていく取組をしていきたい。
- ・④では、単元を通した学習の見通しをもたせることで、学習のつながりを意識させていきたい。

◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《6年生 国語科》

全体の概要

- ・教科全体の平均正答率が県平均とほぼ同じだった。
- ・観点別に見ると、知識・技能については、県平均を大きく上回っている。

思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じだった。

・問題形式別に見ると、「選択式」は県平均とほぼ同じ、「短答式」は県平均を大きく上回ったが、「記述式」は県平均をやや下回っていた。

観点 分析結果・自校の課題 改善に向けた具体的な取り組み ・話し合いの記録の書き表し方を説明し インタビューしたことをメモする機会を ているものを選択する問題では、県平均 様々な教科で設ける。 とほぼ同じでであった。話し合いの内容 ・言葉の違いや表現の違いについて授業の を簡潔に図に表したものを選択肢の内容 中でも丁寧に扱う。 見直しをする習慣をつける。 から正しく選択することができていな かった。 知 識 技 能 ・話し手の考えを比較しながら自分の考 ・活字に触れる機会を増やす。主語、述 えをまとめることができるかを見る問題 語、接続語などが入った文章にたくさん触 では、県平均をやや下回っていた。イン れることで、前後の文章がどのようなつな タビューの中で、下線のように発言した がりになっているか捉える力をつけていき 理由を適切に選択することができていな たい。また、新たな単語に出会ったり、熟 かった。文章を丁寧に読み、言葉から自 語の使い方を知ることもできるため、朝読 分の考えや相手の考えを読み分けながら 書の時間は学年に応じた内容を読むように 考 理解する力に課題がある。 指導していく。 ・文章の関係を整理するため、キーワード や大事なところに線を引く習慣をつける。 判 断 表 現

◆令和7年度全国学力・学習状況調査 ≪6年生 算数科≫

全体の概要

- ・教科全体の平均回答率が県平均とほぼ同じだった。
- ・観点別に見ると、知識・技能については県平均をやや上回っている。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じである。
- ・問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」は県平均をやや上回っている。「記述式」は県平均とほぼ同じである。

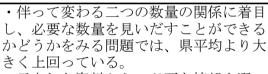
観点

分析結果・自校の課題

・数直線上に示された数を分数で書く問題では、県平均を大きく上回っていた。 これまでの学習の中で、数直線を用いて 考えることで、単位量あたりの大きさを 求める力がついていたことの成果だと考 えられる。

識·技能

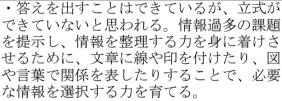
・はかりが示された場面で、はかりの目 盛りを読む問題では、県平均を大きく下 回っていた。



・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる問題では、県 平均とほぼ同じである。

・県平均と比べて、大きく下回っている ものはなかった。 改善に向けた具体的な取り組み

・実際にはかりを使っての測定活動を数多く体験させることで、目盛りの見方を指導していく。いろいろな種類のはかりを準備したり、授業以外でもはかりに触れる場を設定したりすることで、量感を養う。また、理科の学習とも関連付けて指導していく。



あいあいタイムなどで、式から友達の考えを読み取る活動を仕組む。

考・判断

表現

◆令和7年度全国学力·学習状況調查 《6年生 理科》

全体の概要

- ・教科全体の平均正答率が県平均とほぼ同じだった。
- ・観点別にみると、知識・技能については県平均を大きく上回っている。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じである。
- ・問題形式別に見ると、「選択式」「記述式」は、県平均とほぼ同じだった。また、「短答式」は、県平均を大きく上回った。
- ・領域別では、「エネルギー・生命」は、県平均を大きく上回り、「粒子・地球」は、県平均とほぼ同じだった。

観点 分析結果・自校の課題

・乾電池の直列つなぎに関する知識が定着しているかをみる問題では、県平均を大きく上回った。実物に触れて実験をした成果だと考える。また、4、5年生で電気について学習するため、知識が定着したと考える。

知識・技能

・温度によって水の結晶の状態が変化する知識を基に概念的に理解しているかをみる問題では、県平均とほぼ同じ水準であった。県平均を上回らなかったのは、水蒸気が冷却されると水になるという知識の定着が不十分であったと考えられる。

思考・判

断

表

- ・発芽するために必要な条件について実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、県平均を大きく上回った。
- ・電気の回路の作り方について、実験の 方法を発想し表現することができるかを みる問題では、県平均を大きく下回っ た。これは、それぞれの図を細部まで見 て情報を読み取ることに難しさを感じた 児童が多いと考えられる。

改善に向けた具体的な取り組み

- ・学んだ知識や技能を定着させるために単元の冒頭で、既習事項を振り返る。
- 例)5年生で電磁石を学習する際に、4 年生(電池のはたらき)について復習。
- ・単元末に学習した知識を活用して考えを 説明する活動(あいあいタイム)を取り入れる。
 - ・生活の中の事象について考えさせ、説明させて課題に取り組ませる。
- ・知識の構造化が図られるような課題(も のづくり、生活の中での事象の説明)に取 り組ませる。
- ・図から必要な情報を丁寧に読み取る練習を行う。